

ERIS マークの付いた行事は「えりす いしかりネットテレビ」でもご紹介しています。あわせてご覧ください! <http://www.i-eris.tv/>



◎徳田先生、ノーベル賞鈴木さんの功績を語る

本紙コラム(22ページ参照)でもおなじみの、市内の科学者グループ「サイエンスアイ」の徳田昌生さんが、いしかり市民カレッジの特別講座として12月19日(日)、花川北コミセンで講演しました。徳田さんは、昨年ノーベル化学賞を受賞した鈴木章さんの教え子で、北海道大学で共に研究していたとあって、市内外から集まった84人が熱心に聴き入っていました。参加者からは「鈴木カップリングがどういふものか、分かりやすい説明だった」という声も。



◎子どもたちも大喜びの偏光板

「サイエンスアイ」が1月8日(土)に市民図書館で開催した月に一度の子ども科学実験室は、朝からの大雪で、子どもたちが集まるか心配されましたが、鈴木章さんのノーベル化学賞受賞の影響もあって科学に興味をもった親子などが参加。この日は偏光板を使った実験で、子どもたちは万華鏡のように色が変わる不思議な現象に首をかしげつつ、その面白さに目を輝かせていました。



子どもたちに「光は電波です」と説明するドクター・宮台(写真中央)。

◎書き損じはがき回収キャンペーン

学校に通えない世界の子どもたちを支援する「世界寺子屋運動」の活動のひとつとして、市内小中学校の子どもたちが、書き損じなどで投函しない郵便はがきの提供を広く呼びかけています。写真は市内スーパーで手作りのリーフレットを配る双葉小学校の6年生。はがきは市民図書館や市民館で2月10日(木)まで回収しています。

関石狩ユネスコ協会事務局
☎74-1065



◎サッカーを通して 人権について考える

1月13日(木)、サン・ビレッジいしかりで「人KEN ★おもしろサッカー教室・トークショー」を開催。講師に元コンサドーレ札幌の曾田雄志さんや現役の選手を招き、市内サッカー少年団5・6年生54人を対象にサッカー教室、市民100人を前にしたトークショーを行いました。曾田さんたちはサッカーを通して「いくらプレーが上手でも、性格や人間性がだめな人は、周りからの信頼が得られないから良い選手になれない」「いつも誰かが自分を気遣ってくれていることを互いに意識するべき。声を掛け合うことで、助け合える」となどを伝え、子どもたちにとって人権を考える貴重なひとときとなったようです。

最後は少年団ごとに記念撮影。

まちの話題

●まちの主な出来事を写真で振り返ります。

◎今年522人の新成人 ER'S

1月10日は「成人の日」。市では今年、平成2年4月2日～翌年4月1日生まれの522人を対象に成人式を開催。会場の花川北コミセンには359人が足を運びました。YOSAKOIソーランでおなじみの石狩流星海による演奏に始まった式典は、市長や市議会議員からの祝辞、新成人代表の本地慶一朗さんと上山ちづるさん、木村好里さん、伊藤健人さんによる「成人の誓い」と続き、「恩師からのビデオレター」では、平成17年度に卒業した中学校担任の変わらぬ姿(?)に大いに盛り上がると、中学校ごとに記念撮影をして終了。振袖姿やスーツに身を包んだ新成人たちは、久しぶりに再会するクラスメートとの会話に花を咲かせていました。



記念撮影前に広報いしかりが先にパチリ!

◎まさかの事態に備えて

厚田小学校では12月10日(金)、刃物を持った不審者が侵入したという想定で、防犯訓練が行われました。訓練は、教師らが児童たちを速やかに体育館へ避難させ、刃物で威嚇する不審者を「さすまた」を使って取り押さえて終了。訓練後は、厚田駐在所の森警部補から、防犯に対する日々の心構えや、緊急事態が起きた時の判断や行動をどう取るべきかについてのお話があり、児童たちは真剣な表情で学んでいました。



◎市役所に太陽光発電システム ER'S

本庁舎の壁面に太陽光パネルが設置され、1月17日(月)に開始式が行われました。ロビーに設けられたモニターで発電状況が分かるシステムになっています。定格出力は10キロワット、年間発電電力量は7,914キロワット時と見込まれ、二酸化炭素削減効果は年間約3.4トンとなります。市ではこうした取り組みを通して市内における温室効果ガスを削減し、地球温暖化対策を積極的に進めていきます。



写真中央が太陽光パネル。庁舎南側壁面に48枚設置されています。

◎厚田のみんなで「ペタン、ペタン!」 ER'S

12月14日(火)、厚田小学校で恒例の「もちつき大会」が行われ、児童やPTAのほか、教育委員会高齢者教育事業「おらが元気塾」の塾生など約100人が参加しました。サポートを受けながらもちをつき上げ、「自分たちがついたもち最高!」と、あんこ・きな粉もち、雑煮などをほお張る子どもたち。その姿に塾生の方たちも目を細め、「最近はつくことがなくなったが、久々に楽しかった」と笑みを浮かべていました。